

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	幼保連携型認定こども園ミナバもくせいのもり
施設所在地	東京都昭島市
法人名	社会福祉法人多摩育児会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『動植物』

<テーマの設定理由>

当園は緑豊かな東京都の郊外に位置しております。開園し、3年目の幼保連携型認定こども園です。昨年度も園の特色である果樹園での活動と、烏骨鶏や川魚等の生き物の飼育を通して、動植物に興味関心を広げてきました。今年度も園の特色である身近な園環境の中で動植物と出会い、探求する心を育み、深めるため、このテーマの設定としました。

2. 活動スケジュール

年間を通して室内に動植物を配置、図鑑や本を準備し動植物に親しめる環境を準備する。また、園外活動や果樹園へ活動を広げ、虫や草木に日常的に親しむ。

10月：乃庭の竹本さんの指導のもと『チキントラクター』を作成

1月：乃庭の竹本さんによる果樹についてのお話

チキントラクター完成後、実際に烏骨鶏を入れて使い方を子ども達と共有する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・室内に動植物を配置し、日々の観察や図鑑を通して動植物へ親しめる環境を準備。
- ・果樹園や園外活動を通し、身近な植物と触れ合い、芽や花の変化を子ども達と共有する。
- ・『チキントラクター』を作る際に、烏骨鶏の観察や触れ合いの機会を設け、烏骨鶏に対し興味や親しみを持てるよう導入を行う。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

日々の戸外活動を通し、生き物や植物の観察を行いながら、子ども達の発見や気づきを受け止め、共有できるようにした。生き物への関心が高く、担任が捕まえたザリガニを室内で飼育したり、身近に見られる昆虫を図鑑で調べたりしながら活動を行う。季節の変化を感じながら過ごす中で、果樹についてお話を専門家にいただき、さらに植物への関心も高まった。樹木の芽や葉を観察しながら、どのように変化するのかイメージを膨らませることで、植物の観察を個々のペースで行うことができた。また、『チキントラクター』の制作を通し、烏骨鶏の体の特徴や人間との違いについても考えることができた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

春から夏にかけては、昆虫や水の生き物などに興味を示し、生き物の探索活動が多く見られた。その際「これはなんのようちゅうかな」「ちょうちょだ！どこからきたのかな」など、生き物に親しみを感じ保育者と観察や探索を楽しむ姿が見られた。室内では、図鑑を見ながら「これいたよ！」と子ども同士で共有したり、ザリガニの世話を保育者で行ったりしていた。秋から冬へ季節が進み、植物の芽への関心が高まると「ここに”め”があるよ」「なにいろのはながさくかな」など春へ向けての変化を子ども同士で楽しみしたり、烏骨鶏の足や嘴など自分との違いを探したりする姿が多く見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

生き物が好きな子どもが多く、戸外活動では、生き物の探索活動を保育者も一緒に行うことで、苦手な子どもも少しずつ興味を持つことができた。また、室内で生き物を飼育し始めると親しみを持って観察やお世話をする子どもが増え、毎日子どもの目に触れることの大切さを感じた。また、チキントラクターを制作することで、烏骨鶏の足の形や体表などの人間との違いについて考える機会になった。今後、年長児での活動に繋げていく。植物への関心は乃庭の竹本さんからの果樹の話の際、「芽や樹皮などの変化する部位を知る」ことで高まった。植物がどこから変化するのかを伝えていくことで、より植物に親しめると感じた。